

！チャレンジ！

# 家庭菜園

## ニンジン



### 適期の種まきと灌水で発芽を万全に

発芽適温は15～25度で、7～10日で発芽がそろいますが、35度以上では発芽しません。発芽直後の種は乾燥すると枯死し、過湿では酸素不足で発芽不良になります。その後の生育適温は20度前後の涼やかな気候です。

### 栽培カレンダー

	月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
冷涼地			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
中間地				●	●	●	●	●	●	●	●	●
暖地					●	●	●	●	●	●	●	●

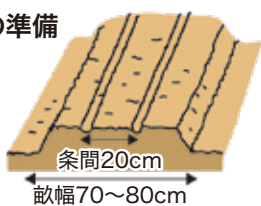
### 1 品種

耐病性、耐暑性に優れる品種を選びます。ミニニンジンは極早生で柔らかく、生食向きです。

### 2 畑の準備

種まきの2週間前に1m<sup>2</sup>当たり苦土石灰100gを散布し、深さ30cm程度に耕しておきます。種まきの1週間前に、1m<sup>2</sup>当たり化成肥料(NPK各成分10%)100gと完熟堆肥2kgを施し、土とよく混ぜておきます。70～80cm程度の畝幅に、条間20cm、深さ1、2cm程度のまき溝を2条作ります。

#### 畑の準備



### 3 種まき

畑が乾いている時は、まき溝に灌水をしておきます。溝に種を1、2cm間隔に条まきし、裸種子は5mmの厚さ、ペレット種子の場合は1cmの厚さを基準に覆土します。軽い火山灰土では手でしっかり土を押さえておきましょう。

さらに、もみ殻をかぶせて乾燥を防ぐ、黒寒冷紗の被覆で地温を下げる等の対策を行います。

### 4 灌水

種まき前に土にしっかり水を含ませること、発芽後も土を乾かさなことが大切です。

なお、黒寒冷紗などの日射を遮る資材でべたがけした時は、発芽後すぐに取り除きます。

### 5 間引きと追肥、土寄せ

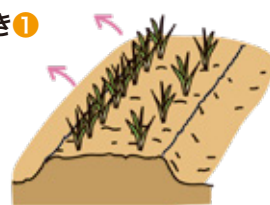
1回目の間引きは本葉2、3枚の時に密生部や生育の遅れている株、逆に極端に進んでいる株の間引きをします。(間引き①)

2回目は本葉5、6枚の時に引き、株間を6～10cmにします。間引く株の根元を手で押さえて引き抜きます。(間引き②)

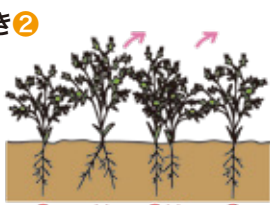
最後の間引き後に1m<sup>2</sup>当たり化成肥料50gを追肥し、株元に土寄せして株をしっかり固定させます。

収穫期近くには、根の肩の部分にさらに土寄せし、根が緑に着色するのを防ぎます。

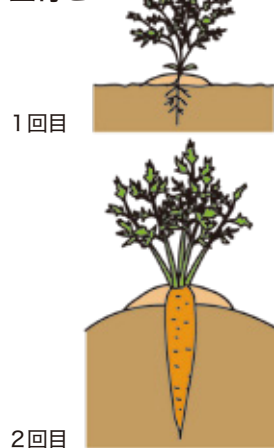
#### 間引き①



#### 間引き②



#### 土寄せ



### 6 病害虫の防除

葉はキアゲハの好物なので、見つけ次第、手で取り除きます。ネコブセンチュウに弱いので連作を避け、前作に被害がある時は作付けを控えましょう。

### 7 収穫

根径5cm程度に肥大した株から順次抜き取ります。年内は肥大が続くので、太り過ぎて裂根しないうちに収穫します。

8月まきではさらに土寄せして越冬させ、葉が枯れた後でも適宜掘り上げて収穫できます。

監修：園芸研究家 / 成松次郎

※ 関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



営農販売部  
営農課 課長補佐

トップ営農指導員  
いすさわ ひでのり  
伊豆澤 秀憲



最新の農業情報や肥料・資材などの新商品、  
さまざまな「営農」に関わるトレンドを  
営農アドバイザーがご紹介

## 「みどりの食料システム戦略」の実用研究

### 環境負荷低減へ

令和4年7月、国により「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律(通称「みどりの食料システム法」)が施行されました。静岡県もこれに合わせて、令和5年3月28日に「静岡県環境負荷低減事業活動の促進に関する基本的な計画」を策定しました。

背景には、近年の地球規模の環境変動や世界情勢から、中長期的な予測をもつて安定的な食料供給を維持するためには、現在の農業生産基盤体制から変化に対応する必要があるとの考えに基づいています。

具体的には、  
○ 化学肥料や化学農薬の使用量低減

○ 有機農業の取り組み面積拡大  
○ 環境負荷低減技術(IPMなど)の導入産地数の増大

○ 省エネ機器・資材の導入面積拡大  
などが目標に盛り込まれています。

採択要件はありますが補助事業など交付金も充てられ、取り組みの推進が促されています。

(令和5年度事業は、ほとんどが募集期間を終了しています)

国の施策のあり方については、諸分野の識者からさまざまな意見や考えが上がっているようですが、国や県で方向性が示され、農家組合員や地域の皆さまにも少なからず影響があると考えられますので、情報として持つておくことが必要です。

### 令和5年度 当JAの取り組み

「みどりの食料システム戦略」の実用研究として、

○ 化学肥料・化学農薬の使用量低減(リスク換算)に向けた技術導入  
○ 環境負荷低減に向けた堆肥活用

などを掲げ、生産現場の事情を踏まえ試験導入を進めていきます。

また、御殿場地区では、JA・御殿場市・県東部農林事務所が「御殿場市みどりの農業推進協議会」を設立。同市内の水田にアイガモロボを導入し、雑草の抑制試験を行っています。



土壌診断による適正施肥指導



富士宮地区では稲わらを畜産飼料に活用